

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人那覇市観光協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 沖縄県那覇市	
所在地	沖縄県那覇市牧志3丁目2番10号(てんぶす那覇3階)	
設立時期	<ul style="list-style-type: none"> ・1954年(昭和29年)1月9日設立 ・1956年(昭和31年)10月5日社団法人認可得 ・2013年(平成25年)3月21日一般社団法人認可取得 	
職員数	42人(契約職員を含む)(令和2年4月1日現在) 【常勤(正職員4人、出向1人、その他37人) 非常勤0人】	
代表者 (トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 佐久本 武 (瑞泉酒造蔵元) (一社) 那覇市観光協会会長	(一社) 那覇市観光協会会長のほか、(一社) 沖縄県食品衛生協会会長、(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー理事、沖縄ツーリズム産業団体協議会副会長等を務めるとともに、沖縄県酒造組合会長、タイ国名誉領事などを歴任し、沖縄県及び那覇市の観光振興だけでなく、物産振興の分野においても牽引している。
事務局統括 事務局長	(氏名) 大城 弘明 出身組織: 那覇市役所	那覇市経済観光部長や健康部長を歴任。健康部時には保健所業務も所管するなど、観光、物産、宿泊、食品衛生、医療等の観光関連業務において、豊富な経験と知識を有する。
各種データの分析・ 収集等(マーケティング)の責任者※必ず記入すること	(氏名) 玉村 剛「専従」	約20年一括して当観光協会に従事。イベント・指定管理など統括。各団体との調整・データ収集などを担当する。
各種データの分析・ 収集等(マーケティング)の副責任者 (旅行商品の造成・ 販売)の責任者	(氏名) 親里恵利香「専従」	一財) 沖縄観光コンベンションビューローや旅行社などに長年勤務するなど沖縄観光について精通しており、着地型商品の造成などに詳しい。
(財務・HP運営管理) 責任者	(氏名) 平良さやか「専従」	財務・当会HP責任者としてデータ収集に取り組む。
(催事・プロモーション) 責任者	(氏名) 仲里 陽「専従」	当会会員企業との連携・情報担当者として県外プロモーションなど中核として取り組む。

(別添) 様式 1

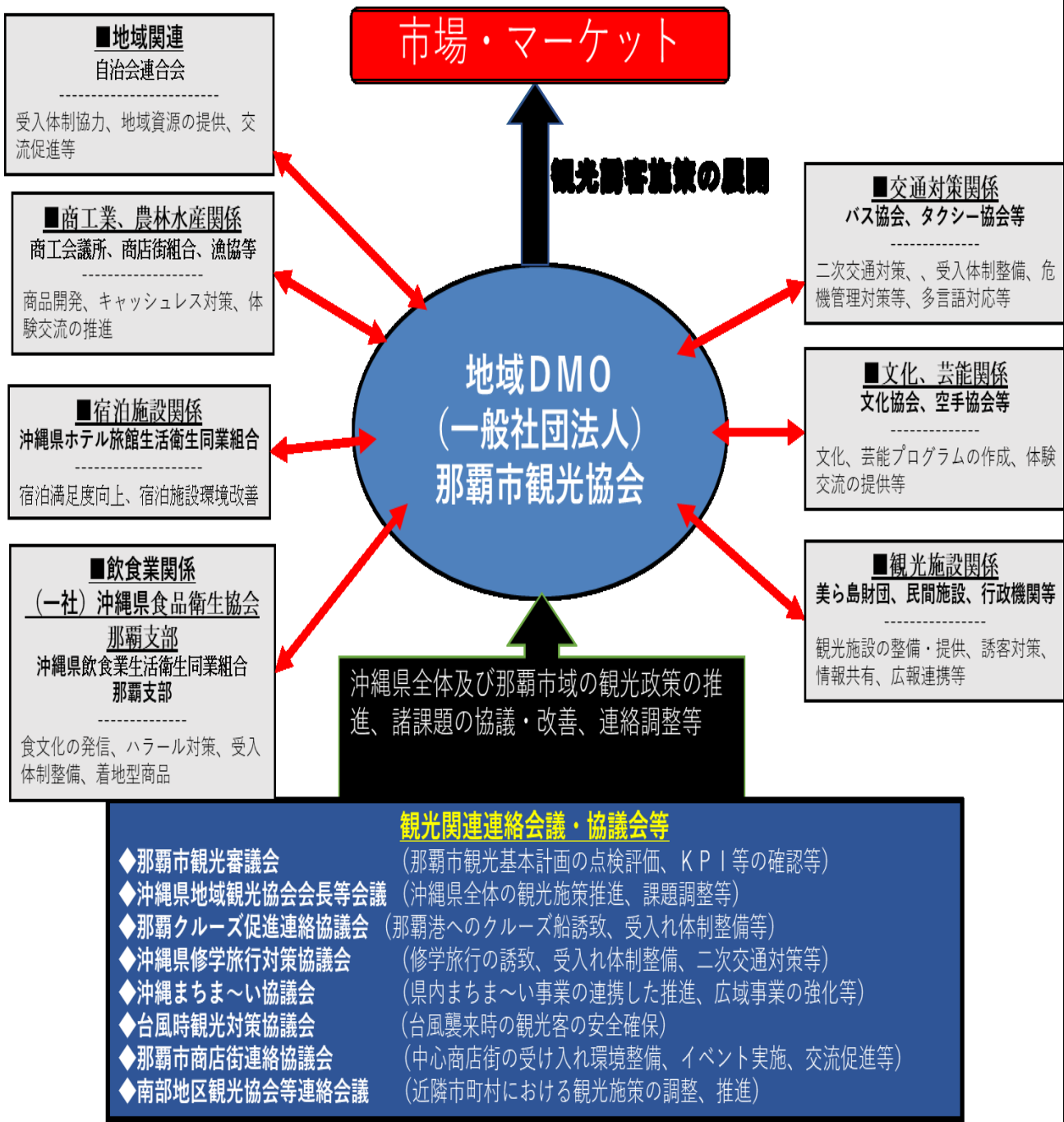
<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>(那覇市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光課：市の観光政策統括、那覇市観光基本計画推進、ブランディング、マーケティング、プロモーション、K P I 統計資料作成、旅行商品造成促進、観光危機管理 ・商工農水課：物産（土産品・伝統工芸品）の販売促進等、人材育成 ・なはまち振興課：観光名所（国際通り・公設市場等）の環境整備、商店街連携 ・秘書広報課：(シティプロモーション) ・文化財課：(文化・芸術の振興、識名園・玉陵等の観光資源活用) ・文化振興課：(文化・芸能の振興、伝統イベント等の活用連携) ・市民生活安全課：(地域の安全対策・防犯対策) ・防災危機管理課：(観光客を含めた防災対策、観光危機管理) ・クリーン推進課：(ポイ捨て防止、環境美化、不法投棄対策) ・生活衛生課：(宿泊施設、民泊対策、食品衛生関係) ・都市計画課：(交通政策全般、二次交通対策・モノレール、都市景観整備・観光地修景) ・道路管理課：(道路環境整備) <p>(沖縄県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光政策課：(沖縄県の観光施策全般・観光統計等) ・観光振興課：(観光誘客・宣伝、観光案内所連携) ・M I C E 推進課：(M I C E 推進)
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（連携相互協力） 那覇商工会議所観光・サービス部会（誘致・受入態勢整備） 沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合（誘客政策連携、宿泊満足度向上） 一般財団法人沖縄美ら島財団（着地型商品） 沖縄県飲食業生活衛生同業組合那覇支部（食文化の発信） 一般社団法人沖縄県バス協会（二次交通の充実） 一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会（二次交通の充実） 沖縄都市モノレール株式会社（二次交通の充実） 那覇市伝統工芸事業協同組合連合会（着地型旅行商品・物産開発） 那覇市国際通り商店街振興組合連合会（着地型旅行商品・物産販売、観光危機管理） 那覇市文化協会（着地型旅行商品開発、伝統芸能・文化発信、ナイト事業推進） 那覇クルーズ促進連絡協議会（クルーズ船誘致、受入態勢整備、観光危機管理） 那覇市自治会長会連合会（観光誘客及び受け入れ機運向上、地域防犯）</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件) 要領Ⅱの3(1)の①④に該当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊、航空会社、商店街振興組合連合会、マスコミ、伝統文化、食品衛生など幅広い関係団体の代表者が理事として理事会に参画し、事業計画や事業予算等の決定に参画している。 ・那覇市観光審議会によるK P I を含む観光施策の点検評価、那覇クルーズ促進連絡協議会、那覇市商店街連絡協議会において受け入れ態勢や環境整備等の具体的な方策等についての検討や情報の共有化を図っている。
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や地場産業及び市民ガイドと連携した「那覇まぢま〜い」事業を実施することにより、地域と産業振興と一体となった観光地づくりに取り組んでいる。(平成30年9月、日本観光振興協会主催の第12回平成30年度産業まちづくり大賞において「特別賞」を受賞) ・上記「那覇まぢま〜い」を実施するにあたり、年に3回パンフレットを作成しており、新パンフレットの紹介と共に当該プログラムを催行実施していくうえで、那覇市管轄の自治会長会にて、周辺自治会のご理解とご支援を

	<p>お願いさせていただいている。自治会長会でのご質問については適宜対応を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・当協会事務局内に語学ボランティアバンクを設置し、クルーズ船入港時や各種イベント、インバウンド向けの観光危機管理の訓練等に活かしている。
法人のこれまでの活動実績	<p>(活動の概要) 「那覇市およびその周辺地域の観光事業の振興を図り、地域文化の向上及び経済の発展向上に寄与し、併せて公益に資することを目的とする」 設立目的に沿って那覇市の観光振興に寄与してきたところである。</p> <p>(定量的な評価)</p> <p><u>事業実績</u></p> <ul style="list-style-type: none">・外国人観光客受入整備事業 増加する外国人観光客に対応するため、観光従事者向け（語学講座・語学サポート・通訳補助）など那覇市からの委託で実施。（予算額：25,905千円）・那覇観光まちづくり整備事業（那覇まちま〜い）＝（まち歩き） 団体客から個人客への旅行形態の変化や、那覇市にもう1泊していただくためのコンテンツとして着地型商品の開発（予算額：14,400千円）・那覇市観光案内所運営事業 日本政府観光局認定のビジットジャパン案内所（カテゴリーⅡ）として、国内外の観光客を迎え那覇市及び沖縄県内の観光地案内、手荷物預かり、車いすの貸し出し、会員店舗のパンフレット配布などの情報発信と受け入れ態勢の充実強化に取り組んでいる。（予算額：57,547千円）・クルーズ船受入整備事業 那覇クルーズ促進連絡協議会から、臨時観光案内所設置運営等の業務を受託し、クルーズ寄港時に若狭クルーズ船ターミナルや安謝新港旅客待合所に臨時観光案内所を開設し、乗客、乗員への観光案内サービスやタクシー案内等を実施している。（予算額：10,359千円） <p><u>事業実績（自主）</u></p> <ul style="list-style-type: none">・観光情報誌NAHA-NAVIの発行 県内会員企業や観光施設・宿泊施設・交通機関などに配布、さらに県外旅行社、修学旅行関係者、学校、沖縄観光コンベンションビューロー県外事務所に配布。（収入額：7,770千円）・観光クーポン券取扱い事業 那覇市の観光・文化財施設である識名園、玉陵、福州園、那覇市歴史博物館、那覇市立壺屋焼物博物館に関し、全国の旅行社とクーポン券取扱い契約を締結し、各施設の集客に努め、前年度119%の増加に繋がった。（1,200千円）・県外での誘客宣伝及び那覇観光キャンペーンレディ派遣事業 那覇市や観光関係団体等と連携し、首都圏等でのイベントや友好都市などの祭り交流を通して誘客宣伝に取り組んだ。また、キャンペーンレディの派遣や活動状況等についてSNSを活用して情報発信を行い、観光都市那覇のPRに取り組んだ。（予算額：2,902千円） <p><u>事業実績（指定管理）</u></p> <ul style="list-style-type: none">・波の上ビーチ広場 那覇市から指定管理業務を受託し、波の上ビーチに隣接する「同広場」の管理・運営を行っている。ビーチ利用客および市民、観光客のための売店運営・バーベキュー事業を展開している。（予算額：23,902千円）

(別添) 様式 1

	<ul style="list-style-type: none"> ・松山文化交流施設 那覇市から指定管理業務を受託して管理運営に取り組んでいる。 (予算額：39,062千円)
実施体制	<p>(実施体制の概要)</p> <p>一般社団法人那覇市観光協会意思決定機関である理事会には、宿泊・飲食・旅行社・航空会社・マスコミ、行政など幅広い関係者が理事として参画しており、官民一体となって那覇市の観光振興に取り組んでいる。さらに、幅広い関係者の意見の収集・課題を把握するため、観光関連連絡会議や協議会等に参加し、関係機関と連携しながら運営を行っている。</p>

(実施体制図)



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

那覇市は沖縄県の県都で、且つ政治・経済・物流の中核であり、また（空路・海路）玄関口である。当法人の設立目的で那覇市の観光振興に寄与するとの事から那覇市を区域とする。

【観光客の実態等】

平成 31 年度（令和元年度）の入域観光客数は 946 万 9,200 人で、前年度比で 53 万 5,100 人、率にして 5.3%の減少となった。年度の観光客数としては、東日本大震災の影響を受けた平成 23 年度以来 8 年度ぶりの減少となっている。その内、国内客は、対前年度比で 2 万 4,700 人、率にして 0.4% 減の 697 万 8,800 人となり、平成 23 年度以来の減少となっている。また、外国客は、対前年度比で 51 万 400 人、率にして 17%の減の 249 万 400 人と大幅な減少となっている。

また平成 31 年（令和元年）（暦年）に那覇市を訪れた観光客の総数は、891 万 9,809 人対前年比 102.5% の増となっている。沖縄県全体（暦年）では、1,016 万 3,900 人となっており、沖縄県を訪れた観光客の 87.8%が那覇市を訪れていると推計される。内訳は、国内客が 659 万 2,716 人（73.9%）、外国客が 232 万 7,093 人（26.1%）となっている。那覇市においても暦年の入域観光客は県に比例して伸びているものの、平成 31 年度（令和元年度）全体としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、対前年度を大きく減少する見込みである。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

那覇市には琉球王国に由来する文化や行事が数多くあり、那覇三大祭である那覇ハーリー、那覇大綱挽、琉球王朝祭り首里などの伝統的な祭りをはじめ、一万人エイサー踊り隊や沖縄国際映画祭など参加型のイベントも数多く実施されている。また冬場の温暖な気候を生かした、プロ野球読売巨

(別添) 様式 1

人軍春季キャンプをはじめとするスポーツイベント等も数多く開催されており、伝統、歴史、文化、スポーツ等様々なテーマで繰り広げられるイベントが魅力である。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

近年は那覇市内全域で新規ホテル開業が見られる。

・2019年12月31日現在の那覇市内ホテル数及び客室数（出典：沖縄県宿泊実態調査）

施設数（446件）

客室数（19,917室）

収容数（43,712人）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

那覇空港から市内中心部まで車で（国際通りまで約20分）

那覇空港から市内中心部までモノレールで（県庁前駅まで約12分）

那覇空港から路線バスで（バスターミナルまで約20分）

【外国人観光客への対応】

那覇市観光案内所（英語・中国語・韓国語対応）JNTO カテゴリーⅡ

外国人観光客受入整備事業（観光従事者への語学講座・サポート講習）

那覇Free Wi-Fi（那覇市）

飲食店など多言語メニュー対応など増加

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光客一人当たり市内消費額	観光消費の実態や市域への経済波及効果を把握し、より効果的な施策展開につなげる。	那覇市経済観光部より入手
延べ市内宿泊者数	観光客の宿泊動向把握と経済波及効果の分析等	那覇市経済観光部より入手
来訪者満足度	マーケティング、商品造成、ブランディング、施策展開のための基礎資料	那覇市経済観光部より入手
リピーター率	マーケティング、商品造成、ブランディング、施策展開のための基礎資料	那覇市経済観光部より入手
市民の観光意識について	観光振興に対する地域住民の理解や意識を調査、受け入れ体制整備の基礎資料	那覇市経済観光部より入手（那覇市民意識調査[隔年実施]）
協会サイトのアクセス状況 http://naha-navi.or.jp/	より効果の高い情報発信のあり方を模索するため	アクセス解析による分析（訪問数・ページビュー・その他）
SNS分析	ネット口コミ拡大する情報を探る為	アクセス解析等

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約 450 年続いた琉球王国の王都として独自の文化を形成して繁栄した都市であること。 ・琉球王国時代から連綿と続く、伝統文化、工芸品、世界遺産群等 (首里城・識名園・園比屋武御嶽石門・玉陵) ・市内に海水浴、ダイビング、バーベキューが楽しめるビーチがあり、隣接する国立公園慶良間諸島へのアクセスも良く、都市部ながらマリンレジャーや自然体験を主目的とした観光も楽しむことができる。 ・宿泊施設・飲食店舗・夜間営業店舗の豊富さ。 ・モノレールをはじめ公共交通の充実 ・有名な繁華街の存在 (国際通り) 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の中北部の通過点 ・観光バスやレンタカー駐車場不足 ・専門人材の不足 ・慢性的な自動車渋滞
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港の第二滑走路の供用による航空便の拡大 ・大型クルーズ船受入バース開発計画とクルーズ船寄港数増 ・沖縄県入域観光客数 1,000 万人 ・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画 ・那覇市観光基本計画 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風など自然災害 ・近隣地域の社会情勢 (基地関連) ・オーバーツーリズムによる環境悪化

(2) ターゲット

<p>○第 1 ターゲット層 国内観光客</p>
<p>○選定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内唯一の亜熱帯地域であることからリゾート感を満喫できる地域であること ・本州とは異なる独自の多様性のある歴史、文化を体験できる。(「琉球王朝時代」「米軍統治下時代」を経て形成された所謂チャンプルー文化) ・国内旅行であるが故の治安及び言語の疎通の良さ。 <p>○取組方針</p> <p>リピーターは他県に比して多いものの、一方では未来訪者も多い。よってライフイベント (修学旅行生・ハネムーン・学生旅行・カップル・夫婦・三世代・プロ野球ファン) などのあらゆるマーケットセグメントに合わせた魅力ある情報の発信を行うことで、現地旅行でも好印象を持ってもらい再来訪に繋げる。</p> <p>具体的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域DMOである沖縄観光コンベンションビューローとの連携による情報発信と誘致 ・WEBやSNSを駆使した那覇市の魅力の周知 ・修学旅行等の積極的な受け入れによる将来のハードリピーターの拡大→旅行社連携 ・リゾートウェディングの誘致→ウェディングプラン事業者及び市内ホテルとの連携 ・大学生の夏休みや卒業旅行先としての誘致→ダイビング事業者等との連携


(別添) 様式 1

<ul style="list-style-type: none"> ・ 熟年夫婦の記念旅行先としての誘致→ガイド「那覇まちま〜い」でのゆったり街散策 ・ 読売巨人軍のキャンプ地であることから巨人ファンをはじめとするプロ野球ファンの誘致促進 <p>○第2ターゲット層 欧米（アメリカ及びヨーロッパ）</p>
<p>○選定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇市はクルーズ船の寄港地として2019年は全国1位（260回）の実績があり、その多くは、中国本土、台湾、香港からの誘客となっているが、今後は比較的滞在時間の長い欧米や国内客のクルーズ船誘致にも取り組みたいと考えている。 ・ 那覇市は「空手発祥の地」でもあり、欧米の空手愛好家のある意味「聖地巡礼」的な要素も持ち合わせている。 ・ 欧米から航空機で来訪するインバウンドは滞在期間が近隣アジア諸国の観光客よりも比較的長い傾向にあるためこの点に着目し、地域経済活性化に資すると考えている。 <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪日外国人旅行者の滞在日数及び消費単価の向上を図るべく、那覇まちま〜い（まち歩き）をベースにした多言語コースの造成やガイドの養成を行い旅行商品としての販売を目指す。 ・ WEB／SNS等による情報発信を強化する。 ・ 那覇フリーWi-Fi データを活用して外国人観光客の動向確認することで、さらなる消費拡大につなげる。

(3) コンセプト

①コンセプト	世界遺産にも登録されている琉球王朝の歴史・文化とその流れを汲んだ現在の那覇市の都市観光を楽しむ
②コンセプトの考え方	国内外とも（飲食・体験・利便性）を前面に打ち出し、公共交通（二次交通）を利用した観光情報発信を展開する。レンタカー移動が主流ではあるが、那覇市内の慢性的な交通渋滞のストレス緩和、不慣れな地域での運転を敬遠する層の誘客につとめる。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	那覇市の観光における課題についてDMOが中心となり、地域の関連事業者呼びかけなどコミュニケーションの場を通して、それぞれの意見を集約する。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	当協会会員の飲食店や土産品店及び宿泊施設に、当協会の年度ごとに発行する会員証を掲示することにより、お客様に安心していただき会員店にはより良いサービス提供を指導する。  <p>参考（那覇市観光協会会員証）</p>

(別添) 様式 1

一元的な情報発信・プロモーション	那覇市観光案内所(JNTOカテゴリーⅡ)で情報収集を行い、正確で新しい情報を提供するとともに、当会発行観光情報誌NAHA-NAVI会員店舗の紹介、イベント情報発信を実施する。またWEB関連ツールでの対応強化をはかる。
------------------	--

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目	単位	平成 29 年 (度)	平成 30 年 (度)	令和元年 (度)	令和 2 年 (度)	令和 3 年 (度)	令和 4 年 (度)
●旅行消費額	円	75,295	77,217	74,156	81,721	84,090	86,276
●延べ宿泊者数	万人	679	750	782	885	961	1,043
●来訪者満足度	%	90	90	94	90	90	90
●リピーター率	%	75	75	77	75	75	75

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

消費額及び宿泊者数の目標値設定にあたっては、平成 27 年策定的那覇市観光基本計画に定められている、計画最終年度(令和 6 年度)の目標値を最終基準とし、過去の実績の伸び率等を踏まえ将来目標値を設定した。

また、満足度およびリピーター率については那覇市観光入込統計調査の結果を基に設定

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

那覇市観光基本計画の観光客一人あたり消費額の最終年度目標値が 9 万円となっており、過去の消費額平均伸び率約 2.9%の伸びを維持出来れば達成可能と判断し、各年度の目標値に伸び率を乗じて設定。

●延べ宿泊者数

那覇市観光基本計画の延べ市内宿泊者数の最終目標値は 1,300 万人泊となっているが、過去の平均伸び率約 8.6%では最終目標値達成は厳しい状況にある。しかしながら、那覇空港の第 2 滑走路増設や市内でのホテル建設が現在も相次いでいることをから、今後伸び率が上昇する可能性も考慮し、現時点では現状の平均伸び率を基に将来目標値を設定。

●来訪者満足度

那覇市へ観光で訪れた方の満足度はこれまでも 90%前後を維持しており、高い数値で推移している。今後も多くの方々に満足いただける観光地を目指すため、これまでの実績を維持する目標値で設定。

●リピーター率

那覇市に再訪の意思がある観光客は 90%前後となっており、実際の再訪率も 75%前後と高い割合で推移している。新規来訪者が今後の再訪者にも繋がることから、一定割合の新規来訪者は必要であり、再訪率はこれまでの実績を維持する目標値で設定。

なお、外国人観光客に関しては沖縄県の調査を基に、国内客と同様の考え方で設定。

(別添) 様式 1

(2) その他の目標

指標項目	単位	令和2年 (度)	令和3年 (度)	令和4年 (度)	令和5年 (度)	令和6年 (度)	令和7年 (度)
●ページビュー数		1,177,281	1,236,145	1,297,952	1,362,850	1,433,993	1,505,693

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

●団体旅行（パッケージツアー）から個人旅行（FIT）への移行から、今後はインターネットで（旅まえ・旅なか）など地域の情報発信が益々重要になってくると考えているが、当会ホームページでは高い直帰率が課題であることから改善が必要である。

【設定にあたっての考え方】

●ページビュー数

新ウェブサイトではGoogleアナリティクスなどで定期的なアクセス分析を実施することにより、ユーザーに必要な情報提供を目指す。ユーザーが必要な情報の発信を行うことで（直帰率の改善・回覧ページ数の増加・平均滞在時間の増加）が見込め、コンテンツに動画発信を組み込むことでページビュー数の目標値を5%で設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
平成 29 年度	264,669,351 (円)	【市町村からの補助金】 78,001,450 円 【地方公共団体からの指定管理収入】 80,135,325 円 【会費収入】 14,364,000 円 【事業収入】 90,524,266 円 【その他寄付等】 1,644,310 円
平成 30 年度	260,532,931(円)	【市町村からの補助金】 81,542,376 円 【地方公共団体からの指定管理収入】 74,188,965 円 【会費収入】 14,728,500 円 【事業収入】 88,151,624 円 【その他寄付等】 1,921,466 円
令和元年度	266,781,946 (円)	【市町村からの補助金】 82,289,100 円 【地方公共団体からの指定管理収入】 26,132,590 円 【会費収入】 14,626,500 円 【事業収入】 142,605,756 円 【その他寄付等】 1,128,000 円
令和 2 年度	262,154,000 (円)	【市町村からの補助金】 79,680,000 円 【地方公共団体からの指定管理収入】 26,371,478 円 【会費収入】 15,320,000 円 【事業収入】 139,682,522 円 【その他寄付等】 1,100,000 円
令和 3 年度	273,588,000 (円)	【市町村からの補助金】 138,504,000 円 【地方公共団体からの指定管理収入】 26,100,000 円 【会費収入】 14,900,000 円 【事業収入】 92,984,000 円 【その他寄付等】 1,100,000 円

(別添) 様式 1

令和 4 年度	273,588,000 (円)	【市町村からの補助金】 138,504,000 円 【地方公共団体からの指定管理収入】 26,100,000 円 【会費収入】 14,900,000 円 【事業収入】 92,984,000 円 【その他寄付等】 1,100,000 円
---------	-----------------	---

(2) 支出

年度	総支出	内訳
平成 29 年度	263,158,784 (円)	一般管理費】 75,353,794 円(運営・案内所)補助金 【誘客宣伝費】 1,781,484 円(HP・交流都市) 【事業費】 169,797,616 円 【観光イベントの開催費】 16,802,899 円
平成 30 年度	258,721,206 (円)	一般管理費】 81,132,800 円(運営・案内所)補助金 【誘客宣伝費】 2,697,934(HP・交流都市・巨人軍) 【事業費】 161,458,001 円 【観光イベントの開催費】 12,515,478 円
令和元年度	264,429,907 (円)	【一般管理費】 82,091,390 円(運営・案内所)補助金 【誘客宣伝費】 3,250,991 円(HP・交流都市・巨人軍) 【事業費】 166,085,586 円 【観光イベントの開催費】 13,001,940 円
令和 2 年度	261,826,000 (円)	【一般管理費】 84,571,000 円(運営・案内所)補助金 【誘客宣伝費】 2,680,000 円(HP・交流都市・巨人軍) 【事業費】 161,473,000 円 【観光イベントの開催費】 13,102,000 円
令和 3 年度	272,650,000 (円)	【一般管理費】 85,209,000 円(運営・案内所)補助金 【誘客宣伝費】 2,902,000 円(HP・交流都市・巨人軍) 【事業費】 171,602,000 円 【観光イベントの開催費】 12,937,000 円
令和 4 年度	272,650,000 (円)	【一般管理費】 85,209,000 円(運営・案内所)補助金 【誘客宣伝費】 2,902,000 円(HP・交流都市・巨人軍) 【事業費】 171,602,000 円 【観光イベントの開催費】 12,937,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・ 指定管理業務における収益拡大に取り組む
- ・ 市内事業所への協会加盟促進を図る
- ・ 那覇市観光案内所並びにショップなは収益拡大に取り組む

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

那覇市は、一般社団法人那覇市観光協会を本市における地域DMOとして登録したいので、一般社団法人那覇市観光協会とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

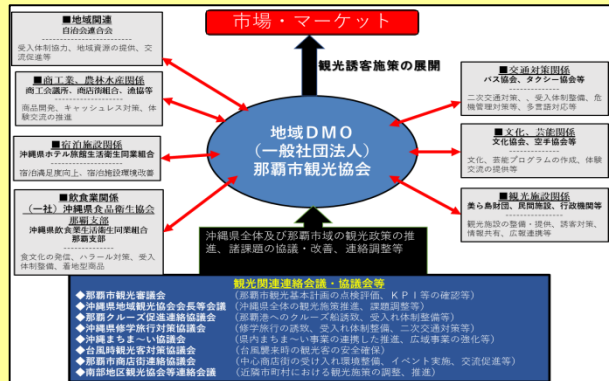
担当者氏名	玉村 剛
担当部署名 (役職)	事務局次長兼事業課長
所在地	沖縄県那覇市牧志 3-2-10
電話番号 (直通)	098-862-1442
F A X 番号	098-880-6893
E - m a i l	tamamura@naha-navi.or.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	那覇市
担当者氏名	宮城洋之
担当部署名 (役職)	経済観光部観光課主幹
所在地	那覇市泉崎 1-1-1
電話番号 (直通)	098-832-3276
F A X 番号	098-862-1580
E - m a i l	59668HIRO@city.naha.lg.jp

【区域】那覇市
 【設立時期】昭和31年10月5日
 【代表者】佐久本 武
 【マーケティング責任者】玉村 剛
 【職員数】41人(契約職員を含む)(平成31年4月1日現在)
 【正職員4人、出向等37人、非常勤0人】
 【連携する主な事業者】
 (一財) 沖縄観光コンベンションビューロー、
 沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合、
 沖縄県飲食業衛生協同組合那覇支部
 (一財) 沖縄美ら島財団、那覇クルーズ促進連絡協議会
 沖縄都市モノレール株式会社
 (一社) 沖縄県バス協会、他

(表：実施体制)



(表：KPI(実績・目標))

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
旅行消費額円	73,003	75,295	77,217	79,418	81,721	84,090
延べ宿泊者数：万人	637	679	750	815	885	961
来訪者満足度：%	90	90	90	90	90	90
リピーター率：%	75	75	75	75	75	75

A: 国際通りを中心とした繁華街と独自の文化体験

◎地政学的独自の文化発展が現在も色濃く残る那覇の生活文化資源を探究

①国際通り沿いの平和通りや公設市場などの衣・食・住についてガイドと歩く「那覇まちま〜い」によるご案内。

②那覇FREE WIFIと連動したHPからの街のおすすめ店を紹介

B: 空港から一番近いビーチ及びBBQ施設の活用

◎空港から数分でアクセス可能な波の上ビーチがあり、またビーチサイドではBBQも楽しめる。那覇市内でリゾート感を満喫できることを情報発信強化

①旅行社商品とのタイアップ

②WEBによる情報発信



C: 世界遺産の首里城や識名園をはじめとする琉球の歴史

◎沖縄にある世界遺産群の4つが那覇市に集中している。琉球王国時代の歴史を探究。

①現地ガイドによる「那覇まちま〜い」(街歩き)にて以下の史跡をご案内
 ・首里城コース
 ・識名園コース
 ・玉陵コース

D: イベントの告知による観光客への訴求

◎那覇三大祭りを中心に文化、スポーツイベントの積極的な情報発信の取り組み

- ①那覇三大祭り
- ・那覇ハーリー
 - ・那覇大綱挽まつり
 - ・琉球王朝まつり首里
- ②その他のイベント
- ・一万人のエイサー大会
 - ・那覇マラソン
 - ・巨人軍キャンプ・沖縄国際映画祭

市全体の広域連携(青線)